

委員会視察記録

委員会名	富士山保全・適正活用推進特別委員会
期 間	令和7年8月25日(月)～8月26日(火)
参加者	委員長 良知 淳行 副委員長 勝俣 昇 副委員長 四本 康久 委 員 野田 治久 委 員 岩田 徹也 委 員 天野 一 委 員 西原 明美 委 員 松井 優介 委 員 川崎 和子 委 員 蓮池 章平 委 員 遠藤 行洋
視察先	1 東口本宮富士浅間神社（駿東郡小山町） 2 須走口インフォメーションセンター（駿東郡小山町） 一般社団法人小山町観光協会事務局 3 須走口五合目（駿東郡小山町） 小山町 商工観光課 ガイド組織やまぼうし 4 御殿場市役所（御殿場市） 御殿場市 観光交流課、社会教育課 NPO法人富士山ホシガラスの会 御殿場ボランティアガイド協会 5 御殿場口新五合目（御殿場市） 6 富士山本宮浅間大社（富士宮市） 7 富士宮市役所（駅前交流センターきらら）（富士宮市） 富士宮市 観光課、富士山世界遺産課 静岡富士山ガイド協会 富士急静岡バス株式会社 静岡県タクシー協会富士・富士宮支部 8 富士宮口五合目（富士宮市）

視察の概要

8月25日（月）

■東口本宮富士浅間神社

<概要>

東口本宮富士浅間神社は、世界文化遺産「富士山」の構成資産の一つであり、須走口登山道の起点となる神社として多くの参拝者を迎えてきた。平成25年に富士山が世界文化遺産に登録されて以降、コロナ禍があったが、参拝者数は年々増加している。

今後の外国人参拝者の増加は懸念事項ではあるが、現状大きな混乱はない。

9合目付近の登山道・岩場の保護柵などが老朽化しており、一部では崩落している。須走口と吉田口が合流した後の場所で利用者も多いため、事故等に備えた対策をお願いしたい。



■一般社団法人小山町観光協会事務局

<概要>

須走口インフォメーションセンターは、世界文化遺産登録10周年である2023年に開設した施設。モニターは、多国語対応となっている。小山町観光協会がインフォメーションセンターの運営を受託している。

<主な質疑応答>

Q 外国人の割合はどのくらいか。

A 須走口は、平日は8割が外国人である。土日は半々。9割が事前登録済みであり、現地での入山料の徴収はほとんど発生していないと聞いている。

■小山町商工観光課

<概要>

須走口は森林限界が高いため、「一番登りやすい須走口」として誘客している。5合目から本6合目は、9月10日の閉山以降もハイキングを安全に楽しめると考えている。令和4年度から、県の道路部局と警察・消防、山小屋等の協力を得ながら、9月10日から9月末まで5合目から本6合目のツアーを社会実験として実施した。今年から本格実施したかったが、昨今山頂付近での事故が多かったことから、今年も社会実験として実施する予定。将来的には、5合目から本6合目までは開山期間を過ぎても、通年で歩けるようになると良い。

小山町として課題に感じていることの一つは、開山日の統一である。今シーズンから始まった入山料の徴収について、吉田口が7月1日開通、須走口が10日開通である

ことから、7月1日から9日までは須走口から登れば4,000円を払わなくても済むという「開通前登山」が問題になった。

■ガイド組織やまぼうし

<概要>

約200年前に積まれた石垣の風化が進んでいるとともに、地球温暖化により接着剤の役割を果たしていた永久凍土が溶け、法面がゆがんできており、非常に危険な状態である。地震があれば、石垣が登山道に飛び出してしまうだろう。早朝であれば2,000人～3,000人の登山者がおり大惨事となる。

やまぼうしの活動については、県と小山町から補助を受けて45日間の巡視活動を実施している。巡視活動では、登山道やロープの点検、ゴミ拾い等を行っている。条例が制定され入山料の徴収が始まり、弾丸登山は確かに抑制されたが、ゴミはなくなる。委員会でもゴミの問題について検討してもらいたい。



■須走口五合目

<概要>

欧米からの登山客が受付小屋で事前登録の認証やリストバンドを受け取る様子を視察。

■御殿場市観光交流課

<概要>

御殿場口は4つある登山口の中で最も過酷だが、下山時には爽快な大砂走りを楽しむことができる。トレイルランナーやサイクリストが多いのが特徴の一つ。

富士山開山に向けた取組としては、富士山御殿場口登山パンフレットの作成や各山小屋と新五合目施設へのAEDの設置、ブルドーザーによる土砂の掻き出しや標柱・ガイドロープの設置等の下山道の整備を実施している。開山に合わせて、御殿場口新五合目第1駐車場にマウントフジトレイルステーションを設置し、来訪者に対する登山案内や観光案内を行っている。市街地から新五合目までの距離が短く、マイカー規制もないことから気軽にアクセスできるというメリットもある。



■御殿場市社会教育課

<概要>

御殿場市域の構成資産は、県境未確定地の信仰遺跡群と須山口登山道の2つ。須山口登山道は、現在の御殿場口登山道と須山口下山歩道の一部である。

県土木事務所が開山前に実施する残雪調査に同行し、現状変更箇所や指定範囲に異変がないか等を確認している。

普及・啓発として、リーフレット「世界文化遺産富士山と御殿場」を作成し、市内にある構成資産の解説や富士山に関連する文化財の紹介を掲載している。

■NPO法人富士山ホシガラスの会

<概要>

2013年に富士山の自然環境を保全するために設立したNPO法人。御殿場口新五合目の環境保全の取組として、外来種を含む非在来植物を調査し、駆除のためのハンドブックを作成するなどしている。

富士山の森林帯は、生物多様性に富んだ優れた森林環境教育の場である。富士山学習の講師を務めたり、教師向けの観察マニュアルの作成なども行っている。

五合目以下の森林帯で遊歩道の廃道化が進んでおり、森林教育に適した環境が失われつつある。遊歩道の再開に向けて動いているが、遊歩道が複数の市町にまたがっているため、県の助力をいただきたい。

植生としては五合目以下が豊かであるため、五合目以下にも着目していただきたい。

今シーズンから4,000円の入山料の徴収が始まったが、植物観察や昆虫観察をする人にとっては負担が大きい。富士山の自然に興味を持ち、将来富士山を守る力になってくれる方に配慮がある規制であるといい。

■御殿場ボランティアガイド協会

<概要>

御殿場市観光協会の指導を受けて令和2年に設立。市観光協会や民間ツアー会社から依頼を受けてガイドをしている。海外の方からの依頼も多く、英語ができる人材の確保が課題。

主な活動内容としては、トレイルステーションでのガイド活動などがある。観光客に周辺の案内と登山のアドバイス等を行っている。

富士山は登るだけではなく、休養林等も素晴らしい。本当にいいコースが埋もれている現状がある。

■御殿場口五合目

<概要>

マウントフジトレイルステーション及び御殿場口の受付小屋等を視察。



8月26日（火）

■富士山本宮浅間大社

<概要>

世界文化遺産の構成資産の一つ。境内地は史跡指定を受けており、本殿は国の重要文化財、拝殿・楼門は県の文化財の指定を受けている。

<主な質疑応答>

Q インバウンドの影響はあるか。また今後懸念されることはあるか。

A 以前はゴミ一つなかったが、文化の違いか、外国の方がゴミを捨てていくことがあり、ボランティアの方がマナーについて注意するなどしている。また登山については、外国の方は無理な登山をしがちである。悪天候時、山小屋は閉めてしまうが、神社は公共的な部分もあるため開けておくと外国人で一杯になってしまう。また、救護にかかる費用を払えない外国人もいる。



■富士宮市観光課、富士山世界遺産課

<概要>

今年から静岡県側でも入山規制がスタートしたが、現在まで大きなトラブルは聞いていない。富士宮口の登山者数については例年より11%減で、夜通し登る弾丸登山の減少が見受けられるなど、概ね好意的に捉えられている。

令和3年に焼失した旧レストハウスの代替として、富士山スカイラインの開通期間及び富士山の開山期間において、避難休憩を兼ねた飲食、登山装備などを提供する施設及びトイレ並びに指導センターを整備している。

富士宮口8合目にある県の施設を借り受けて、衛生センターを開設している。平成

26年度までは、浜松医大の協力のもと25日間の開設であったが、平成27年度以降は、山岳医の協力もいただき段階的に期間を延長している。平成29年度から昨年度までは45日間、今年度は52日間の予定。令和6年の診療実績は、受診者370人のうち県外が240人、そのうち外国人が79人。医師の確保が課題。また、施設単独の電気がなく、8合目の山小屋から電気の供給を受けている状況。最大の課題は、施設の老朽化。建て替えが難しい設置箇所であるため、修繕等の対応について、県と協力しながら対応していきたい。



■静岡富士山ガイド協会

<概要>

富士登山のガイド依頼があった場合には、登山者に対し、軽装登山の禁止、適正な装備品の準備を依頼している。ルール・マナーについては、事前に資料を配付するなど啓発活動を行っている。また、弾丸登山を避けるために、山小屋に宿泊するよう依頼している。

団体のガイドについては、隔年で野外救急法の受講を義務づけている。また、登山客の安全管理を行うことだけでなく、登山客に対し、富士山の魅力、歴史、自然文化、信仰を説明するよう周知している。

富士宮ルートは、海に面していることから天候の変化が激しく、悪天候時に暴風雨になりやすい。

■富士急静岡バス株式会社

<概要>

マイカー規制期間中の水ヶ塚駐車場・富士宮口五合目間のシャトルバス、鉄道駅・富士宮口五合目間の路線バスを運行している。

シャトルバスについて、始発時刻を昨年よりも早めた結果、早朝便利用者の分散が図られた。日帰りの登山者にとっては、早い時間から登山を開始できる点や始発便までの待機時間が短縮するなど利便性が向上した。

路線バスについては、新富士駅、富士宮駅を起点に運行するバスは6往復、三島駅については富士急シティバスが登山便は6便、下山便は8便運行しており、マイカーを持たない外国人の多くが乗車している。

■静岡県タクシー協会富士・富士宮支部

<概要>

今期に関しては、五合目の登山者・下山者ともにタクシー利用者が昨年に比べ半減

している。

夜間の登山客・下山客に対応できるタクシーの台数が少なくなっている。また、富士山は標高が高いため、それに対応できる身体的な適性も求められる。将来的に、高齢化、持病等の理由で富士登山のタクシーに従事できるドライバーが減少していくことが危惧される。

■富士宮口五合目

<概要>

富士宮口の受付小屋等を視察。受付スタッフから、受付小屋の向きと登山客の導線があっていないため、来年度以降は向きを変えてもらいたいといった意見や、受付小屋の窓が小さく登山者の靴などの服装のチェックがしにくいといった課題を聞き取った。

